

農林水産省令和4年度フードバンク活動強化緊急対策委託事業（補正予算事業）

フードバンク活動事例集



作成 株式会社マイファーム

事例集について

フードバンクとは、食品企業の製造工程で発生する規格外品などを引き取り、福祉施設等へ無料で提供する団体・活動です。

2015年以降急速に団体数が増加し、現在日本全国で252のフードバンク団体が登録しています（2023年9月農林水産省掲載）。

本事業を通じて活動状況をヒアリングしていくと、ボランティアで運営されている団体は全体の約50%で、週1回～数回の頻度で運営されていることが分かりました。また、活動開始から3年未満の団体も多く、そうした団体の多くは既存のフードバンク団体とのつながりが少なく、ノウハウや知見の共有が十分でない傾向にあります。

このような状況の中、本事業は、小規模なフードバンク団体の基盤強化のサポートや、団体同士の関係性構築などを通じて、フードバンク活動を加速させ、より多くの食料を必要な人に届けられることを目指して実施しました。

事業を進める中で、フードバンク団体の多くが共通の課題をもつことが分かりました。この事例集は、そうした課題に対する解決するための取り組みや、優良事例を共有することを目的としてまとめたものです。課題ごとにまとめて紹介していますので、日々フードバンク活動に取り組む皆さんの課題解決のヒントにぜひご活用ください。

ページの見方

「専門家派遣事業・優良事例」のページでは、課題ごとに事例を紹介しています。事業の概要は、P.48の「本事業について」をご参照ください。

専門家派遣事業：本事業を通じ、フードバンク団体が抱える課題に強い専門家を派遣した事例

優良事例：全国のフードバンク団体のうち、活動のヒントになるとされる優良な事例

課題ごとにカテゴリ分け

専門家派遣事業
優良事例

02

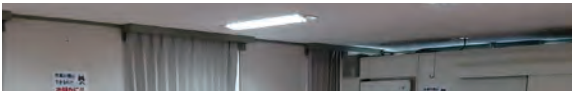
ファンドレイジング

専門家派遣実績
9回 12時間

団体概要
所在地 福岡県北九州市
代表者名 理事長 原田昌樹
設立年 2013年
スタッフ数 11名
ボランティア 100名
活動日数 週6日

活動と広報と寄付の循環へ
特別法人会員制度を開始

認定NPO法人フードバンク北九州ライフアゲイン



目次

専門家派遣・優良事例	P05
特集	
01 NPO法人 フードバンク山口	P06
ファンドレイジングの課題	
持続可能な運営のために寄付を募りたい。どうお願いすればいい？ 何から始めればいい？	
02 認定NPO法人フードバンク北九州ライフアゲイン	P09
03 フードバンク泉佐野	P10
04 NPO法人フードバンク渋谷	P11
05 NPO法人フードバンク浜っ子南	P12
行政連携の課題	
自団体だけでは活動の限界がある……。地域全体で困窮者をサポートするために、行政と連携したい！	
06 NPO法人フードバンクあしかが	P13
07 認定NPO法人葵風	P14
08 NPO法人フードバンクふじのくに	P15
09 NPO法人フードバンク狛江	P16
企業開拓・連携の課題	
地元企業と連携して、もっと支援の幅を広げたい。どんな方法がある？	
10 NPO法人らしく	P17
11 一般社団法人鹿児島県フードバンクセンター	P18
12 NPO法人フードバンク福岡 / 雪印メグミルク株式会社	P19
13 NPO法人セカンドハーベスト・ジャパン	P20
広報の課題	
フードバンクの取り組みをもっとたくさんの人に知ってもらいたい！	
14 認定NPO法人セカンドハーベスト名古屋	P22
15 認定NPO法人 フードバンク関西	P23
団体立ち上げの課題	
フードバンク活動を始めたいけれど、何をすればいいかわからない。どんな準備が必要？	
16 フードバンクおいまつ	P24
17 天草こども未来ネットワーク結の手	P25
法人化・認定取得の課題	
基盤強化のために法人化したい。	
寄付者にとって税制メリットもある認定NPO法人の取得も目指したい。	
18 NPO法人フードバンク奈良	P26
19 フードバンクひのくに	P27

ネットワークの課題	
他のフードバンク団体と情報を交換したり、協力して支援に取り組んだりしたい！	
20 北海道フードバンクネットワーク	P28
イベントレポート： 企業とフードバンクのパートナーシップで叶える社会課題の解決	P29
21 NPO法人埼玉フードパントリーネットワーク	P30
22 一般社団法人福岡県フードバンク協議会	P32
23 新潟県フードバンク連絡協議会	P33
その他の課題	
在庫管理を効率化したい	
24 フードバンク神戸（NPO法人神戸こども食堂ネットワーク）	P34
フードバンク運営マニュアルをつくりたい	
25 一般社団法人東北フードバンク連携センター	P36
イベントレポート： フードバンク活動促進に向けた情報交換会	P37
食品取り扱いの規定を整備し、活動基盤を強化したい	
26 NPO法人フードバンク京都	P38

フードバンクトピックス	P39
寄付集めのためのヒント	
事例1 NPO法人フードバンクしまねあったか元気便	P40
事例2 認定NPO法人フードバンク関西	P40
マッチングシステムの活用	
事例3 みえ〜る（三重県）	P41
事例4 おかやまフードトリップ（岡山県）	P41
チェック項目で食品管理	
事例5 NPO法人 フードバンク京都	P42
事例6 NPO法人フードバンク福岡	P42
紹介コーナー	
基礎セミナー動画	
テーマ：NPO法人化・認定NPO法人化	P43
テーマ：ファンドレイジング戦略	P44
テーマ：食品寄贈量の増加	P45
テーマ：企画立案と助成金獲得	P45

事業概要	P47
本事業について	P48



專門家派遣事業

・

優良事例

団体概要

所在地 山口県山口市
代表者名 理事長 今村 主税
設立年 2014年
スタッフ数 有給20名
ボランティア100名
活動日数 週5日
https://fbyamaguchi.org/

2022 年度活動実績

取扱量 54.5 トン
食料提供者 企業 約 85 社
食料提供先 約 300 団体／施設

活動内容

食品関連企業から発生する規格外品や過剰在庫品などの、品質には問題ないが廃棄される食品、一般企業や行政などから発生する期限が近くなった災害備蓄品などの寄贈を受け、行政や社会福祉協議会、こども食堂や支援団体等を通して、生活困窮者へ食料を支援する活動をしている。

フードバンクと呼ばれる組織（法人格の有無を問わず）は、2023年現在全国に400以上存在し（株式会社マイファーム調べ）、地域の特色を生かした興味深い取り組みが増え続けている。2014年に設立されたフードバンク山口（2017年NPO法人化）もその一つだ。

ステーション方式

一般的には一つの都道府県に複数のフードバンクが存在し、支援エリアが被らないようにそれぞれのフードバンクが配慮しながら全域をカバーしているパターンが多い。山口県においてはフードバンク山口を含めてフードバンクが2団体しか存在しないため、他県と比べるとカバーできない空白エリアが多くなる。そこでフードバンク山口は県内に9カ所の“ステーション”と呼ばれる拠点を置き、県内全域をカバーできるように組織的な運営している。

2017年に法人化する際、下関市を拠点として活動していたが、もともと県内全域を活動範囲としていたことや、主要な機関が集まる山口市に事務局を移した方が都合が良いといったこともあり、山口市に事務局を置くことにした。

法人化にあたり改めて団体の活動方針を話し合う中で、山口県の分散型の都市構造を考えたときに、県内に10カ所くらいの拠点をつくり、各地域で地産地消型の活動することが理想ということになった。県内のフードバンクが統一的に活動することで、企業からの寄贈の窓口が一つになり、他県のように複数の団体に別々に企業がアプローチするより寄贈が進みやすい

ステーション方式で県内全域をカバー

NPO法人 フードバンク山口



であろうという狙いがあった。

各ステーションでは、食品管理の方法や支援の原則についても基本的に同じ方針をとっている。また下関市にあるもう一つのフードバンク団体“リビング下関”は食料支援の方針が異なり、フードバンク山口では手が届かない要支援者に対して柔軟に支援をしている。すなわち、フードバンク山口の弱点をフォローするような関係になっており、互いに協力しながら活動をしている。

9カ所のステーション

ステーションは、やまぐちステーション、みねステーション、ほうふステーション、しゅうなんステーション、いわくにステーション、はぎステーション、ひ



▲フードバンク山口の拠点

かりステーション、下関地区、宇部地区の9カ所。

このステーション方式により、一元管理が可能となり、寄贈食品の奪い合いや支援エリアの重複などのトラブルを避けることができる。

ステーションは社会福祉協議会や他のNPO団体、行政、さらには民間企業が運営を担っている点も他にはない大きな特徴である。

各ステーションは原則として寄贈食品の“地産地消”で運営しているが、地域によっては寄贈される食品に偏りがあり、米が多く寄贈される地域もあれば加工食品が多い地域もある。したがって、多少食品の種類を平準化する必要も出てくるが、理事やスタッフなどが何かの用務で移動する際について運ぶなどにより食品を融通し合っている。

フードバンク山口の物流

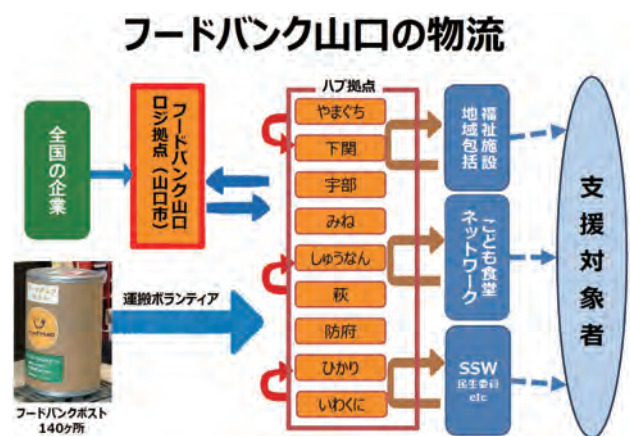
寄贈食品は県内企業等からの寄贈の場合は最も近いステーションで受け入れる。県外や大量の食品が寄贈される場合は、一旦フードバンク山口のロジ拠点（山口市）に預けられ、そこから9つのステーションに運ばれる。支援先となる様々な福祉施設やこども食堂・民生委員・支援団体などが各ステーションへ食品を取りに行き、そこからさらに要支援者へと食品が配られる。

ロジ拠点への食品の配送は原則、食品提供側の企業の負担だが、ある程度のまとまった量の食品の運送は既存の流通システムに載せられるケースもある。従来の少量の食品をフードバンク側の事情に合わせて宅配便で送付するよりは、企業側の負担が少ないと考えられる。

ロジ拠点は、山口県内のBtoB物流事業者である国広倉庫運輸株式会社が荷受け、一時保管から配送までを営業エリア内は無償で協力している。

所有の倉庫では、フードバンク団体ではできないフォークリフトによるパレット単位での荷受けや荷下ろし、保管が可能で、通常業務に支障のない範囲で協力が可能になっている。

配送は営業エリアでの通常の配送業務に合わせた形



▲フードバンク山口の物流



▲フードドライブの開催も積極的

で、余分な業務が発生しないよう事前に調整した上で協力している。現状の配送エリアは県内の半分程度のステーションがカバーできている状況で、県東部や北部は一部カバーできない地域もある。

しかしながら、物流業界では2024年問題が注目され人手不足も深刻になっている状況で、大量の食品の保管と運搬を一部担っていることは、他地域での食品のボランタリーな流通のモデルケースとなっている。

また、フードバンク山口のしゅうなんステーションを運営している株式会社中特ホールディングスは、周南市にある廃棄物の収集・運搬・処理を主な事業とする地元企業であり、CSR（企業の社会的責任）やSDGsにも熱心に取り組んでいる。

ひかりステーションも同様に廃棄物処理業を営む熊谷興業株式会社が運営をしている。両社ともフードバンク山口と連携協定を締結した上で、各地域拠点のステーション業務を会社の業務として担っている。

ステーション業務は、主に寄贈食品の受け入れ・チェック・記録・保管・配布会の開催・ボランティアのマネジメント・フードバンクポストの管理・地域への広報などである。フードバンク山口の活動に対して企業からの視点でアドバイスするなど協力的な関係を築いている。



▲多様なスタッフが関わっている

専門家派遣実績

9回 12時間

団体概要

所在地 福岡県北九州市
代表者名 理事長 原田昌樹
設立年 2013年
スタッフ数 11名
ボランティア 100名
活動日数 週6日
https://fbkitaq.net/

2022 年度活動実績

取扱量 130 トン
食料提供者 188 社
食料提供先 約 145 団体
約 1000 世帯

活動内容

生まれてきた誰もが尊厳をもって生活を営める地域社会の構築を目的に子ども食堂や福祉施設への食品配布、要支援世帯への食料支援や相談対応、子ども食堂、無料学習塾、居場所等を運営。

活動と広報と寄付の循環へ 特別法人会員制度を開始

認定NPO法人フードバンク北九州ライフアゲイン



団体が直面していた課題

ボランティアから有給スタッフを軸に

物価高騰の影響で増加する支援世帯数に対応する運営資金を確保すべく、有給スタッフを軸とした運営にシフトチェンジしたい。

企業からの寄付を強化したい

これまで一定の寄付額はあったが、企業からの寄付を促す取り組みはほとんどなかった。フードバンク山梨の特別法人会員制度を参考にして、的確な広報により活動を周知し、賛同企業から資金寄付を促す流れをつくりたい。



▲食品積み込み作業の様子

専門家から見たポイント



派遣された専門家
米山 けい子氏
認定NPO法人フードバンク山梨

活動・広報・寄付の好循環をつくる

寄付集めは良い活動→広報→寄付の循環が肝。今回は、すでにフードバンク活動が充実していたため、新たに雇用した広報担当者に寄付者目線を意識してもらいながら、活動と連動する形でニュースリリースなどの広報を助言。

寄付者目線を徹底

特別法人会員制度を新設。北九州SDGs登録事業者・地元の有力企業・既存の連携企業など計200社超へ会員制度の案内を送付。寄付依頼のチラシ・理事長からの手紙・封筒の作成にあたり、フードバンク山梨の資料を共有し、寄付者に関心を持ってもらうためのポイントを伝えた。郵送後は電話を入れ理事長自ら企業を訪問した。

どんな変化が起きた？

法人会員は8社へ

12月時点で法人会員は8社、計82万円の寄付を獲得。訪問企業からは前向きな返事も多く、会員数の増加が期待される。

月次の成果を検証

実践しながら振り返る機会をつくり、全員で取り組む姿勢と、月次の成果を検証する意識が生まれた。企業アプローチを実施したことで、やればできるという自信が生まれた。

団体担当者より

今回、企業アプローチの具体的なノウハウを教えていただき実践しました。フードバンク全体の底上げを願っておられる米山氏の惜しみないノウハウの提供に、強く感銘を受けました。当団体も、はや10年。米山氏に倣って、フードバンクの底上げに貢献していきたいです。

理事長
原田 昌樹さん



フードバンクポストを 県内 150 カ所に設置

同団体は山口県内に 150 カ所以上のフードバンクポストを設置している。この設置数は全国のフードバンクの中でもトップクラスである。また各所に設置しているフードバンクポストは東ソー・エスジーエム株式会社の協力で無償提供されていて、この点も素晴らしい企業連携である。

2022 年の寄贈量のうちフードバンクポストからの割合は 4 割を占めている。フードバンクポストに投函された食品は、主にボランティアが週に 1 回程度ポストを確認、回収し、各地域のステーションに持ち込んでいる。回収された食品はトレーサビリティを確保するため、食品毎に番号をふり、食品名や賞味期限、重量等を記録し、各ステーションの陳列棚に並べられる。支援先として登録している団体スタッフ等は配布会の際に各ステーションを訪れ、必要な食品を選んで持ち帰り支援の必要な家庭や個人に渡している。

多様な組織を巻き込み 組織体制を形成

理事長の今村主税氏は、山口県立大学の准教授である点も他のフードバンクにはない特徴だ。今村氏の専門は環境科学で“環境負荷の少ない循環型社会の形成”という専門ノウハウも取り込みながら、食品ロス削減と生活困窮世帯の食糧支援に取り組んでいる。

また、理事には、福祉分野に関係の深い山口県こども食堂支援センターの統括コーディネーターがおり、山口県内のこども食堂のネットワークとも密接に連携



▲商業施設など様々な場所に設置されている



▲山口県内約150カ所に設置されている

がとれていることも特徴の一つである。

フードバンク山口の役員やスタッフの人的つながりやフードバンクの環境・福祉・まちづくりなどの多様な側面でのつながりが、結果として多様な組織を巻き込みフードバンク山口の特徴ある組織体制を形成している。

専門家派遣実績

6回 8時間

団体概要

所在地 大阪府泉佐野市
代表者名 代表理事 水取博隆
設立年 2022年
スタッフ数 2名
活動日数 週5日
https://foodbank.izumisano.kirin-npo.com

2022 年度活動実績

取扱量 18 トン
食料提供者 21 社
食料提供先 約 41 団体
約 200 世帯

活動内容

子ども食堂やフリースクールなどを展開するNPO法人キリンこども応援団が運営。生活困窮者や子育て世帯等へ継続的、安定的な支援を行うことと食品ロスによるゴミ排出量を削減するため、フードバンク活動を実施。

寄付集めは仲間づくり 訴求力を磨き支援者獲得へ

フードバンク泉佐野（NPO法人キリンこども応援団）



団体が直面していた課題

行政委託以外の財源確保

泉佐野市の委託でフードバンク活動を行っているのですが、収入は安定。しかし、委託であるため現在は泉佐野市以外へ支援地域を拡大できない。そのため、将来的に支援域拡大できるように寄付金収入を獲得していきたい。

活動周知が寄付獲得につながらない

広報スケジュールを立て新聞に掲載してもらうなど積極的に広報を行っているが、法人寄付やマンスリー・サポーターの獲得につながらない。



▲活動拠点の様子

専門家から見たポイント



派遣された専門家
御手洗 薫氏
株式会社岡澤商店

寄付集めは関係構築から はじまる仲間づくり

ファンドレイジングの基礎知識は習得済みだったので、実践にいかせる知識や助言を提供した。その過程で、寄付集めは“お金をください”ではなく、“より良い未来をつくる仲間づくりである”というパラダイムシフトが起こった。また、法人寄付と個人寄付では異なる訴求メッセージが必要だと認識された。

寄付集めは1人ではできない

寄付集めを代表1人で担うことには限界がある。そこで、寄付集めを事業や人材育成と分けて捉えず、日々の活動と行き来させる取り組みを提案。開所式には寄付者を招いて関係性を深めることができた。

どんな変化が起きた？

9名のサポーターを獲得

マンスリーサポーターが新たに9名増えて30名に。そのうち、訪問営業した企業の担当者との関係を丁寧に紡ぎ、個人寄付につながった例があった。事前にケーススタディとして、企業としての寄付が難しい場合には、社長や社員個人の寄付など提案の幅があると学んでいた。実際に成果につながり大きな自信となった。

団体担当者より

すでに食料や寄付金でサポートをいただいている皆様の巻き込み方や、新規サポーターの獲得方法をアドバイスいただきました。また、長期的な取り組み方についても、情報とともに具体的な実践方法を教えていただきました。伴走支援のおかげで、一歩も二歩も進むことができました。

代表理事
水取博隆さん



寄付集めチームを組成 支援者視点で寄付戦略を

特定非営利活動法人フードバンク渋谷



団体が直面していた課題

支援者へのアプローチ方法

これまでの活動から潜在的な支援者がいることは分かっているが、実際の寄付まで結びつけるための戦略や体制が弱く、企業・個人へのアプローチ方法を考える必要があった。

自治体主体の寄付集めに挑戦

自治体が運営主体となる寄付集め“ガバメントクラウドファンディング”への参画のため、目標金額達成へ向けて寄付への動線をどう作るか考える必要があった。



▲食品箱詰め作業

専門家から見たポイント



派遣された専門家
久保匠氏
ソーシャルセクター
パートナー・すくらむ

リソースを考慮したスケ ジュール整理

プロジェクトの実施から逆算しながらタスクと到達点を決めて、役割分担を行った。Googleカレンダーでスタッフのタスクを共有し、具体的なスケジュールを決定。成果への期間を設定した。

寄付戦略を考える

団体のクラウドファンディングチームを立ち上げ、ユーザー動線を考えて精緻化していく作業について助言した。企業に対してはアタックリストと寄付を依頼するレターづくり、個人に対してはターゲット層を分けてアプローチ方法を考えた。

また、より効率よく有効に寄付集めを行うために、オンラインとオフラインをどう使い分けるかについても検討。

専門家派遣実績

12回 12時間

団体概要

所在地 東京都渋谷区
代表者名 理事長 久保田 文吾
設立年 2016年
スタッフ数 3名
ボランティア 約20名
活動日数 週4日
https://foodbank-shibuya.org

2022 年度活動実績

取扱量 6 トン
食料提供者 約 30 社
食料提供 約 4 団体
約 700 世帯

活動内容

地域で食品を集めて支援を必要としている人々に提供。食品以外を必要としている場合は他の関係機関につなぐなど、地域の人々がお互いに助け合うためのプラットフォームの役割を目指している。

どんな変化が起きた？

ファンドレイジングチームの組成

初めてチームとして戦略を練り、ガバメントクラウドファンディングにも挑戦できた。

支援者視点で価値を言語化

支援者の思考を想像し情報発信できるように。また、企業と接点を持つ際に業種や業態を考慮しどんな連携の仕方があるか考えるなど、日頃からファンドレイジングの意識を持てるようになった。

団体担当者より

昨年に引き続き専門家を派遣していただき、発信力が大きく向上しました。渋谷区と連携したガバメントクラウドファンディングに向けたアドバイスは、実践的で大変参考になりました。また、いくつかの寄付金公募に挑戦し、採択まで至ったことも大きな成果です。

事務局長
久保田 寿江さん

